



科研費ニュース

令和5（2023）年度東京未来大学の科研費申請状況は以下の通りです。

		令和5年度						令和4年度					
		こども (保育・教育)		こども (心理)		モチベーション 行動科学部		こども (保育・教育)		こども (心理)		モチベーション 行動科学部	
基盤研究 (A)	一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	海外学術調査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基盤研究 (B)	一般	0	0	1	19,999	0	0	0	0	1	18,033	0	0
	海外学術調査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基盤研究 (C)	一般	8	33,058	1	4,980	2	8,089	3	11,300	2	9,003	4	14,620
	特設分野研究	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
挑戦的研究	開拓	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	萌芽	0	0	1	5,000	0	0	0	0	1	4,997	0	0
若手研究 (A)													
若手研究		0	0	1	5,000	0	0	1	5,000	0	0	0	0
ひらめき☆ときめき サイエンス		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
件数 / 金額		8	33,058	4	34,979	2	8,089	4	16,300	4	32,033	4	14,620
合計件数		14 件						12 件					
合計金額		76,126 (千円)						62,953 (千円)					

令和5（2023）年度に向けた研究種目別の申請件数を見ると、総じて基礎研究（C）が多くなっています。令和4（2022）年度と比較すると、申請の合計件数および合計金額は増加傾向にあります。近年は本学からの申請の採択率が高まり、平成31（2019）年度から令和4年（2022）年度にかけては多くの採択がありました（詳細は「研究推進ニュースレターVol.16」をご参照ください）。申請あつての採択数の増加ですので、次年度もさらに申請件数が増えることを期待しています。

ご自身の研究に合った種目を検討し、申請してください。研究種目により公募開始日・提出期限が異なりますので、ご注意ください。詳しくは、日本学術振興会ウェブサイト内の科学研究費助成事業（科研費）の制度概要、「研究種目・概要」ページをご覧ください。

https://www.jspss.go.jp/j-grantsinaid/01_seido/01_shumoku/index.html

- 参考として、令和6（2023）年度の主な申請スケジュール（予定）を以下に示します。
 - * 公募開始：2023年7月中旬
 - * 公募締切：2023年9月中旬
 - * 審査結果通知：2024年2月中旬

出典：日本学術振興会ウェブサイト内 > 科学研究費助成事業 > 日本学術振興会からのお知らせ
> 令和5（2023）年度以降の科学研究費助成事業の公募スケジュールについて

https://www.jspss.go.jp/j-grantsinaid/06_jspss_info/2022/g_1102/index.html

特別企画①

特別企画として、2022年度子ども環境学会ポスター発表賞を受賞された大橋恵先生に、研究内容についてお話を伺いました。

受賞された研究テーマ（藤後先生・井梅先生との共同発表）
「一般的な養育態度との本人の養育態度とのずれとストレスに関する国際比較研究」



Q1：今回受賞された研究の内容について教えてください。

世界価値観調査など国によって価値観が異なることは知られていますが、この研究では、社会の価値観と自分の持つ個人的な価値観のずれを扱っています。大きな調査の一環でその調査のテーマが「子育て」でしたので、社会の価値観と自分の持つ個人的な養育態度がずれている人ほど、様々な調整が必要になるためにストレスが大きいのではないかと考え、個人主義的な国（アメリカ・ドイツ）と集団主義的な国（日本と中国）の母親を対象に調査を行いました。その結果、アメリカ・ドイツ（成果・勝利主義的な態度を持つ者のみ）および日本では、統制的養育態度がストレスと関係していましたが、中国ではそのような関係は見られないという文化差が認められました。

Q2：その研究テーマに至った経緯を教えてください。

藤後先生・井梅先生と8年ほどジュニアスポーツの共同研究をしてきましたが、最近では子どもの課外活動全般への親の過度な期待にテーマを移しつつあります。本研究も3人の共同研究で、2021年度東京未来大学特別研究助成（藤後筆頭）をいただいて、子育て絵本（2020年度特別研究費の成果、藤後作）の効果測定を4か国の母親対象に行った際、ついでに養育態度やストレスも測定してみたというのが経緯です。正直なところ思い付きに近い探索的な内容でしたが、発表に関心を寄せていただいたようでよかったです。



Q3：今後の展望などについてお聞かせ下さい。

大学院では文化心理学が専門でしたが、ここのところ日本に引きこもってしまっていて、今回の調査はよい機会を頂いたと思っています。とりあえず、このデータをきちんと論文にすることが近い目標ですが、これをきっかけに、また文化心理学的な研究をしたいと思っています。

特別企画②

特別企画②として、2022年度に新規で科研費に採択された中澤純一先生に、研究テーマとその内容についてお伺いしました。

Q1：採択された研究テーマと概要、具体的研究方法や研究計画について教えてください。

研究テーマは「『多様性の尊重』と『社会正義の実現』を視点とした多文化教育の教材開発」になります。本研究では、多文化教育の教材開発を行い、開発教材を実践にかけ、その有効性を検証し、その検証を踏まえ、開発した教材を再構築することを目的にしています。特に、外国人集住都市の一つである浜松市に着目し、地域に根差した多文化教育教材の開発を目指しています。



Q2：研究計画調書作成にあたって、工夫された点などアドバイスをお願いします。

研究計画調書の作成にあたり、初めて読む方や専門分野外の方が読んでも、内容を汲み取って頂けることを意識して執筆しました。特に研究計画調書では、「マジョリティの日本人児童生徒の意識変革のための教育に向けた教材開発」を強調したかったので、該当する部分は太字にしたり下線を引いたり工夫しました。

Q3：研究の進捗はいかがですか？今後の展望についてお聞かせください。

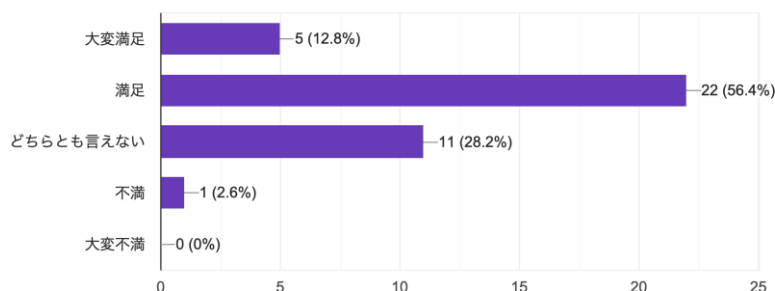
本年度は、多文化教育における教材開発及び授業実践に関する資料収集、フィールド調査を中心に行っています。特にフィールド調査を2・3月で本格的に行う予定です。昨今、外国籍住民の割合が急速に高まっている静岡県袋井市でのインタビュー調査、愛知県津島市立A小学校での授業参与、日系移民に関する広島市、周防大島町等での文献・史料調査を計画しています。来年度は、研究の最終年度になるので、多文化教育のアナログ及びデジタル教材を開発し、汎用可能な教材集を作成したいと考えています。

研究環境調査結果

研究推進委員会では、令和4（2022）年9月28日～10月19日にかけて、研究環境調査を実施しました。ご協力ありがとうございました。以下に、一部の調査結果を掲載いたします。

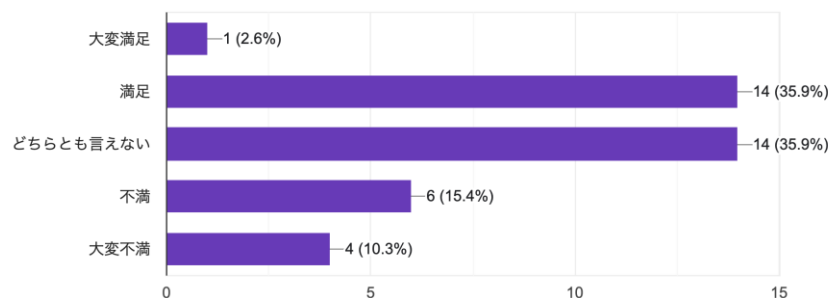
現在の研究費の満足度を教えてください。

39件の回答



現在の研究環境（施設設備）の満足度を教えてください。

39件の回答



現在の研究費については、満足している教員が多いことが示されました（「大変満足」12.8%、「満足」56.4%）。一方、研究環境（施設設備）については、不満を感じる教員が少なくないことが示されました（「不満」15.4%、「大変不満」10.3%）。また、授業の準備、学生対応などで研究時間が確保できないという意見もありました。

その他に、電子ジャーナルの充実や分析ソフトの希望などを求める声もあり、現在、各委員会と話し合いを少しずつ進めています。毎年実施していた研究推進委員会主催の研修会については、科研費申請書の書き方や申請のための個別対応などの希望がありましたので、次年度は科研費申請書作成の研修会や個別対応についても委員会で企画して参りたいと思います。できる範囲ではございますが、少しずつ先生方の研究環境を整えられるようにいたしますので、引き続き研究推進委員会へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和4年度 東京未来大学特別研究助成研究発表会（成果報告会）

開催日：令和5（2023）年2月22日（水）

時間：10時30分 角山剛学長挨拶

10時35分 心理系発表，司会：井梅由美子

10時35分 非心理系発表，司会：田澤佳昭

令和5（2023）年2月22日（水）に，令和4（2020）年度東京未来大学特別研究助成研究発表会（成果報告会）が開催されました。午前10時30分，角山剛学長によるご挨拶に続いて，心理系，非心理系に分かれて発表が行われました。発表件数は，全8件でした。

以下に，今回ご発表いただいた先生方のお名前と申請課題（発表タイトル）を紹介いたします。また，この発表会における口頭発表以外の特別助成研究テーマや概要の一部を紹介いたします。

東京未来大学特別研究助成研究発表会 プログラム

心理系 （司会：井梅由美子）

氏名	申請題目
藤後悦子・ （大橋恵・ 井梅由美子）	運動・文化芸術を包括した指導者ハラスメント加害尺度の作成と抑制要因の検討 研究1と研究3では，運動系・文化系の指導者を対象に質問紙調査を実施し，加害尺度の開発と加害行動を抑制する要因を検討した。研究2では指導者120名に調査を実施し，ハラスメント原因や防止方法について検討した。
野中 俊介	ひきこもり状態の改善を目指した家族支援の効果を高める前提条件
鈴木 公啓	食行動と心身の健康の関連
大橋 恵・ （藤後悦子・ 井梅由美子）	受験に対するイメージ 申請者らが関わってきたジュニアスポーツで挙げた成果主義や親子の過度な同一化の問題が，勉強とその延長線上にある受験にもみられるか疑問を持ち，中学受験選択の要因や中学受験の意義の認知を探索的に検討した。
小谷 博子	医療的ケア児とその家族が求める支援に関する研究 2021年「医療的ケア児支援法」が施行され，子どもとの生活の場が自宅だけでなく，学校や地域社会へと広がりを見せている。医療的ケア児を取り巻く現状と小児在宅医療における医療機器の今後の可能性について報告する。

発表風景（C531教室）



非心理系 (司会：田澤佳昭)

氏名	申請題目
山崎善弘	姫路藩木綿専売制の実現過程と歴史的意義に関する総体的研究—日本資本主義の形成過程と関わって—
	姫路藩木綿専売制について、姫路藩の役割と木綿問屋を核に形成された地域経済圏のあり方、また木綿の江戸積の具体的様相から分析し、同専売制が幕藩制的経済構造の変容をもたらす契機となったことを解明した。
白石雅紀 (東田全央)	日本におけるマイノリティ集団間の複合と相克に関する当事者団体からの聞き取り研究
	新たなマイノリティ問題の見方であるマイノリティ集団間の相克 (IMC) に焦点を当て、日本における IMC を整理した。また、IMC があったとしても、マイノリティ集団間のつながりを織りなす試みについて論点を整理し、今後の研究につながる課題の提案を行った。
紙本 裕一	算数・数学教育研究における計量言語分析の可能性

発表風景 (C532 教室)



その他の特別研究助成 テーマおよび概要 (一部紹介)

氏名	申請題目
石橋 里美	仕事場面における自己志向的動機・他者志向的動機に関する PAC 分析
	企業従業員を対象として、職務遂行過程における自己志向的動機と他者志向的動機の内在を PAC 分析により個人別に構造分析することを目的とする。
磯 友輝子	遠隔型研修・講座の実施状況の調査と遠隔学習の「オンライン自習室」の効果の検討
	本研究では、COVID 19 感染拡大以降に発行された文献から遠隔型研修の課題を明らかにし、動画学習型研修の課題である理解促進及び研修内容の活用を促すための共同学習実験の準備として予備研究を行った。
金塚 基 (杉本 雅彦)	高等学校における応援部の活動役割を通じた教育機能の展開に関する研究
	高等学校応援部の成立経緯、活動状況・内容、その他の行事等において披露される活動の特徴に関する考察を通じて、それらが学校教育において果たしてきた役割について明らかにする。
川口 めぐみ	美を感じるのはいつか：乳幼児の美的感情の発達
	こどもはいつ「美」を感じるのか。また、その対象に普遍的な視覚刺激特徴はあるのか。全国の乳幼児の保護者を対象に調査を行ない、審美感情の芽生えを明らかにするため探索的な研究を行った。

小林 久美	家庭科教育と数学教育における教科等横断的視点によるカリキュラム開発の枠組みの提案と教材開発
	高等学校家庭科と数学科との教科横断に関する授業の内容と生徒の学習について、評価・検討を行った。授業のワークシートから生徒の記述に基づく反応類型を分析し、日本科学教育学会大会にて発表した。
小林 祐一	総合的な学習の時間における SDGs カリキュラムに関する考察：社会科副読本の分析を通して
	総合的な学習の時間における SDGs カリキュラムの作成と実践の可能性について考察した。各地域で作成・発行されている地域教材である社会科副読本の分析を通して、問題解決型の SDGs 授業実践の方法を見出した。
島内 晶	日常生活における記憶の失敗経験が高齢者のメタ記憶に及ぼす影響
	「記憶の失敗経験」がより多くなる高齢期には、家族をはじめとした周囲の人々からそれについて指摘されることも増えるだろう。本研究では、そうした指摘がメタ記憶に対してどのような影響を及ぼすのか検討を行う。
中澤 純一	多文化教育における「多様性の尊重」と「社会正義の実現」を視点とした単元開発：日系移民学習を手がかりとして
	「多様性の尊重」と「社会正義の実現」を単元開発における視点として、児童生徒が日系移民についての学習（日系移民学習）を通して、多文化共生社会の実現に向けた必要な資質を養うことのできる、単元を開発する。
野澤 義隆	夫婦親密性尺度作成に向けた夫婦親密性概念の検討
	本研究は、育児期夫婦の夫婦親密性尺度作成に向けた夫婦の親密性に関する概念を検討することを目的とした。研究は主に文献研究を行い、夫婦関係や夫婦の親密性に関わる心理測定尺度を概観した。
埴田 健司	性的マイノリティ偏見を生み出す進化的な心的メカニズムの検討
	性的マイノリティに対する偏見を進化的アプローチから検討した。所属動機は偏見を弱め、罹患回避、地位、性愛関係に関する動機は偏見を強めていた。また、社会的調和への脅威が偏見を強めていた。
真家 英俊	小学校体育における疾走動作の観察的評価基準の作成
	小学生の疾走動作を対象に、肘の引き出しや体幹の前傾、遊脚膝関節の屈曲など身体各部位の動きをバイオメカニクス的に分析することによって、小学校体育における走運動技能の観察的評価基準の作成を試みた。
森下 一成	COVID19 パンデミック後の都市における葬儀について：足立区とその周辺区域を中心に
	近年、葬儀の多様化、簡素化、脱宗教化が浸透しつつあったが、新型コロナウイルスによりその傾向は一段と、そして急速に拡大した。臨終から収骨まで防疫処理を確実にしながら葬儀をもこなす専門業者も現れ、亡者を目にすることもないまま儀式が成立するようになってきている。このような現状において、消費者心理と仏教において葬儀で執り行われる引導作法との乖離を明らかにし、今後の仏教葬儀のあり方について一石を投じた。

編集後記

本年度も研究推進委員会の活動にご協力いただきまして、まことにありがとうございました。特別企画のインタビューでは、ご多忙中にも拘らず、お引き受けいただいた先生方に、委員一同心より御礼申し上げます。今年度の成果報告会は、3年ぶりに対面で開催することができました。研究に関する活発なご議論、どうもありがとうございました。最新号、どうぞご味読のほどよろしく願いいたします。